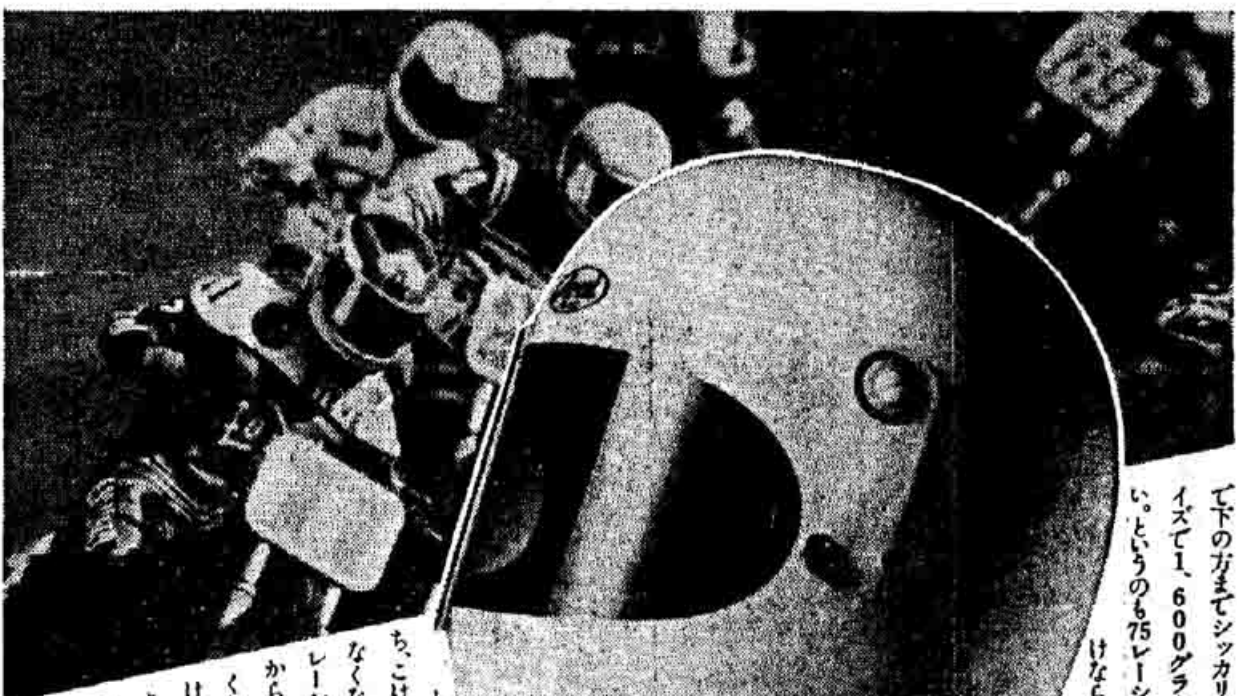


考 ト ム メ ル ヘ ル シ ン グ レ

アメリカのプロレーサーは、新しいヘルメットを手にすると、必ずといっていいくらい、すそを両手で押しつぶし、シツカリしてるかどうかをたしかめる。かぶり心地がどうのこうのいう前にまずこれをする。ヘルメットのテストにしては原始的なようだが、これも彼らの生活の知恵なのだ。というのは、どんなヘルメットの規格でもテストというのは、だいたいにおいてヘルメットの上半分を打つもの。だから、ヘルメットにスネルマークがついてれば、上半分の安全は保証付だ。しかし、こけて打つのは上ばかりじゃない。下の方までしっかりとのかかばらなきゃ長生きできない。だからといって下の方までテストする規格はない。それで、ヘルメットのふちをギューギュー押しつぶし、大丈夫をうか自分で確かめてるわけだ。ヨーロッパの人は割合安全にはおおらかなので、アメリカ人みたいなホシないかと思ってる。が、若いF1ドライバーには四輪レース川を見せたら、やはりふちのところをギューギューやっつてグッドノールといっていた。将来性がありそうなレーサーは、ヨーロッパでもアメリカなみに安全に気をつかうものだと思つた。

そういう点、75レーシング(X-75 Racing Type)には自信がある。もちろん、C.L.C. R X-7なら間違いないが、こちらは¥40,000。ところが、半値の75レーシングだつて安全性ではいい線いつてる。上半分がスネルの承認済なのはもちろんだが、下の方も手抜きはしてない。一方、重量はファイバーグラス



下の方までシツカリきてるので、標準サイズで1,600グラム弱と決して軽くはない。というのも75レーシングだつて軽くするだけならどうつて事ない。上の

方はスネルぎりぎりまで厚みを削り、下の

方はガラスをへらして薄く

すりや、100や

150はす

ぐ軽

くな

る。でも、

それをやっち

やーおしまい

だ。アメリカ

のプロにも何

んだこれはノ

といわれちゃう。だいたい

ち、こけて助かるものも助から

なくなつちやう。それじゃ75

レーシングの名がすたる。だ

から、75レーシングはかた

くなにガツシリ作りつづ

け、レーサーの頭をまも

り統括しているわけだ。

75レーシングの内装は、

頭をしっかりとホールド

して、ヘルメットを頭

の一部にしてしまふ。だから、それほど目方は

感じなくなつてゐる。というのも、人間の頭は

約5kgあるのだからヘルメットをかぶると、5kg+

ヘルメットの重量が首にかかるわけだ。という

事は、手で持つてヘルメットの重量を較べれば、一割軽くても、これは軽いと感ずるが、よくフィットしたヘルメットの目方を首で感じ

X-75 RACING TYPE

規格表示: スネル75、JIS2種 色: 白、黒つやあり
 サイズ: (55-56)、(57-58)、(59-60)、(61-62)
 価格: ¥20,000

(株)新井広武 埼玉県大宮市東町2-12
 ☎(0486)41-3825~7

●アライについてのお問合せは、質問事項、お名前、電話番号、それと在宅時間をお知らせください。お電話さしあげます。

はたった5%減にしかなってない。むしろ、ちよつと軽くても、フィットが悪く、ぐらぐらされた方がよほど首にくる。そういうわけで、75レーシングの内装は特にフィットに気を使つてゐる。75レーシングは、こんな具合にできているので、レースをしようという人には本当にいいヘルメットだと自信を持つてる。けれども、どうしてもっと軽いのがという人は、やはり、あと¥20,000出して、C.L.C. R X-7にしていたたきましよう。